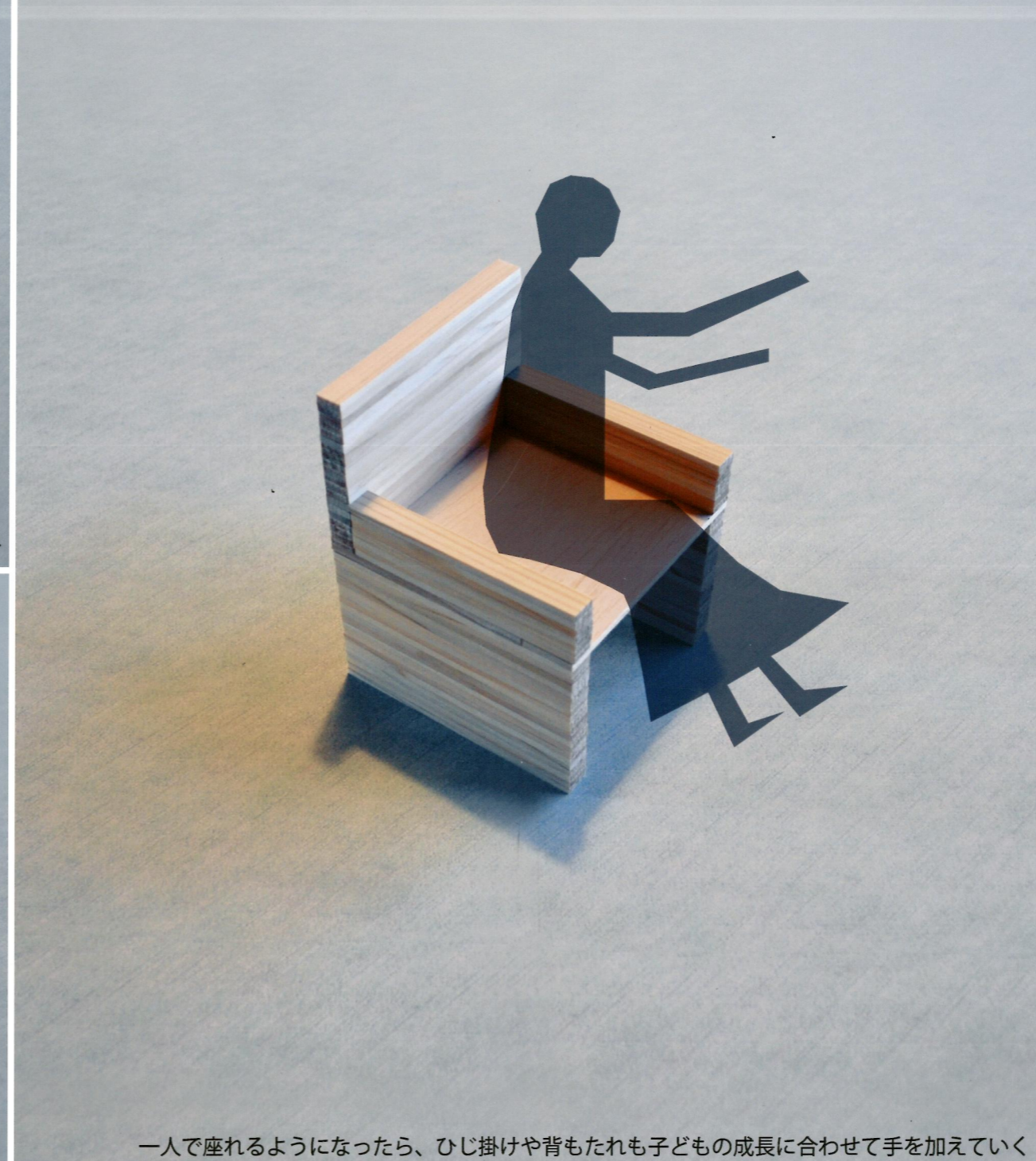




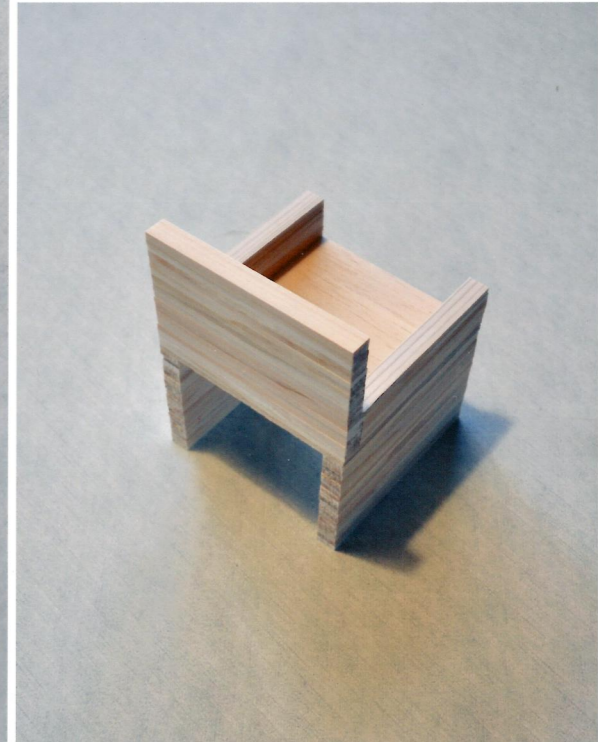
はじめは、ツミキとして利用し、赤ちゃんとのコミュニケーションを楽しむ



おすわりをしはじめたら、部材を積み重ねて子どもに合ったイスの大きさにしていく、子どもの成長はめまぐるしいので、手を加え続けるイスとなる



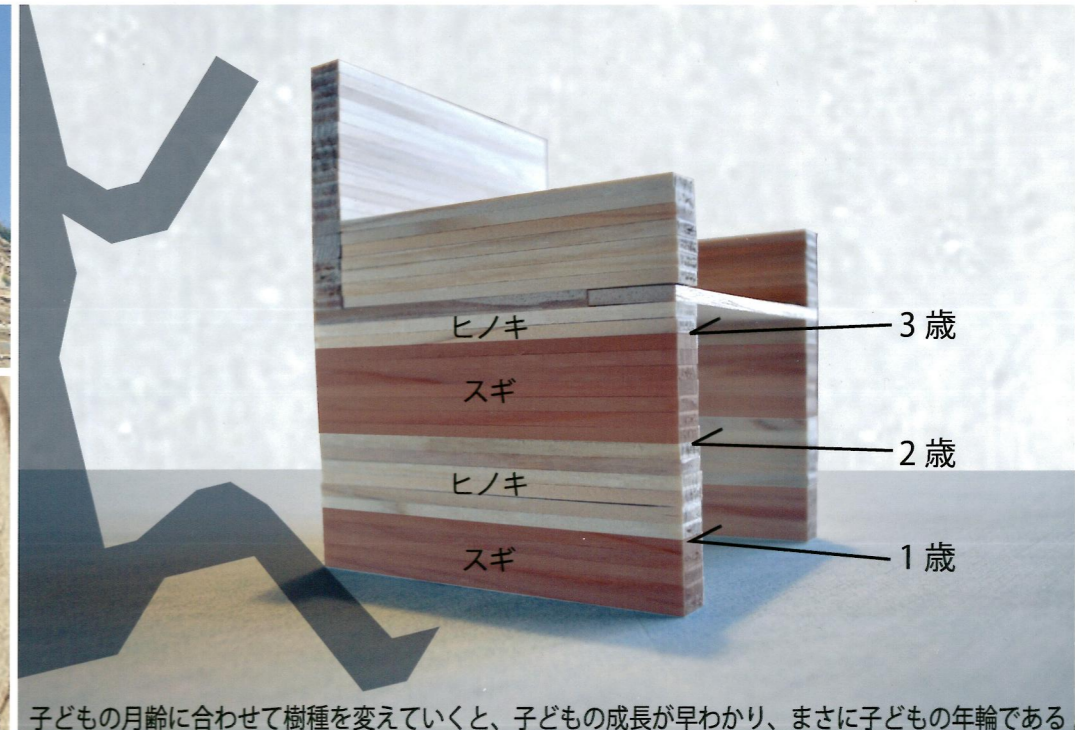
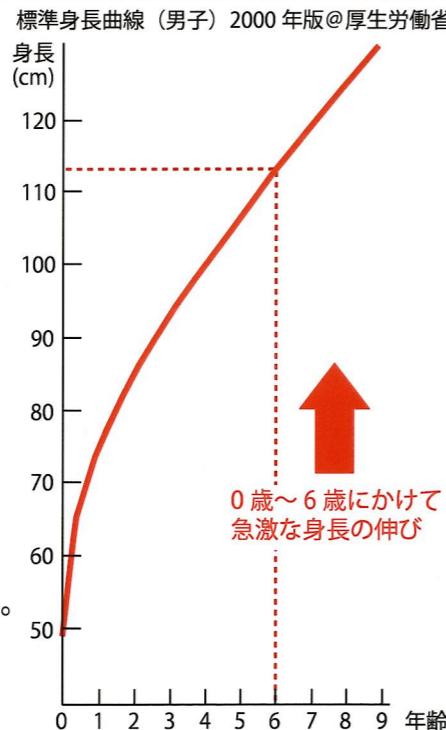
一人で座れるようになったら、ひじ掛けや背もたれも子どもの成長に合わせて手を加えていく



# TUMIKISU

産まれる赤ちゃんとともに親も赤ちゃんも木製品も成長していくモノはつくれないだろうか。そう、それはツミキを積み重ねていくように。と同時に、子どもはものすごい勢いで成長していく（右図参照）ので、その成長を記録するような木製品がつかれないだろうか。

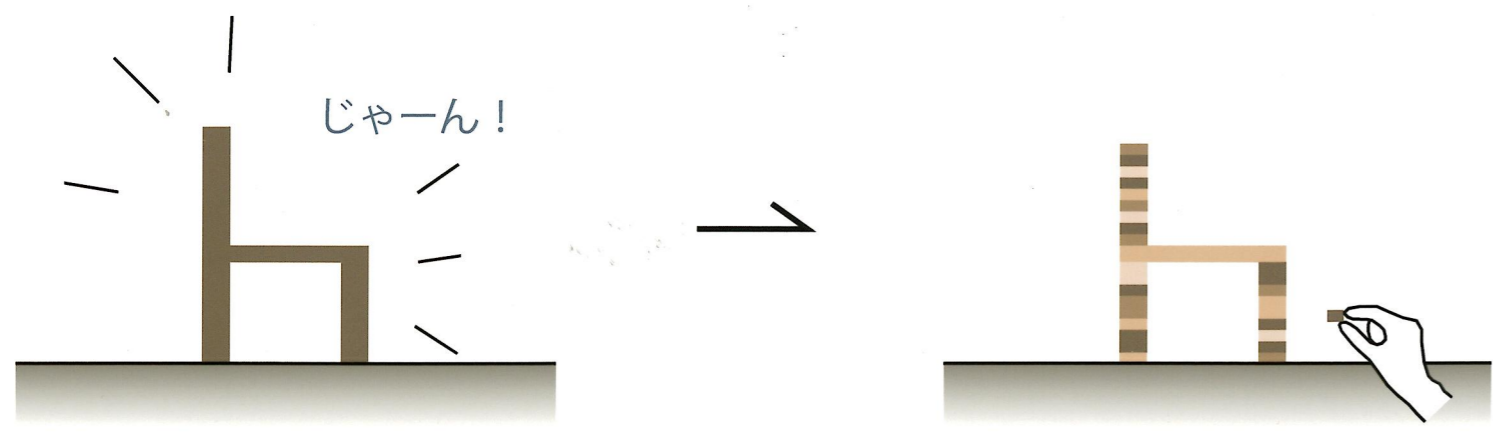
この木製品はイスである。乳児期では、部材をツミキとして親とのコミュニケーションを図ることができる。おすわりができはじめたら、子どもの成長に合わせてイスの脚の長さを部材を積み重ねることで調整していく。ひじ掛けや背もたれも必要に応じて積み重ね、長さを調整する。この木製品は、「積む」という行為を通して子供の成長を感じ親としての喜びと自覚も育むことができる木製品である。





■Diagram ～木育を感じる木製品～

木のある暮らしを通して子どもとともに親も成長していくことができる「木育」を感じられる木製品。  
この木製品も徐々に家族の成長とともに形が変わっていくような、いわば未完の木製品として家族を見守る。

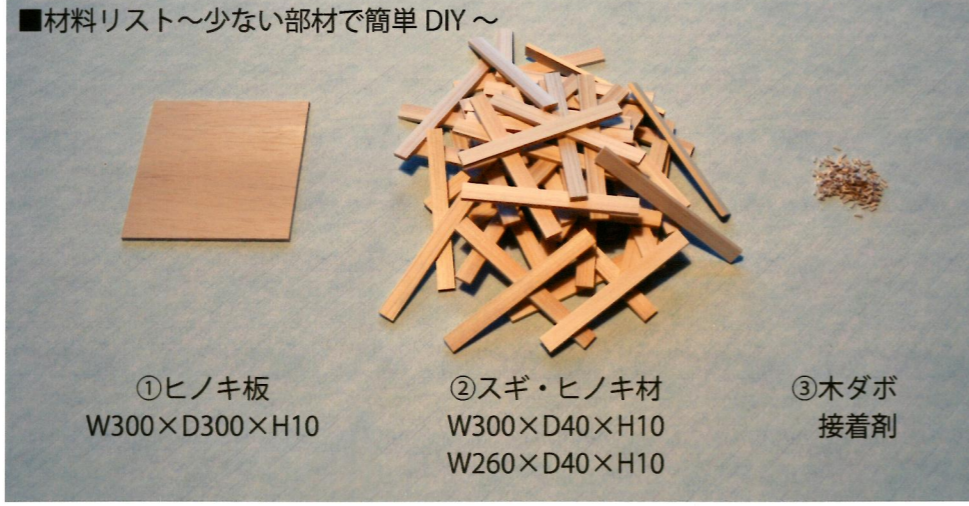


つくって完成しておしまいという木製品では親の自覚を育てることはできない

手を加え続けることで、時間をかけて親の自覚を育み子どもの成長も分かり喜びも共有できるような未完の木製品

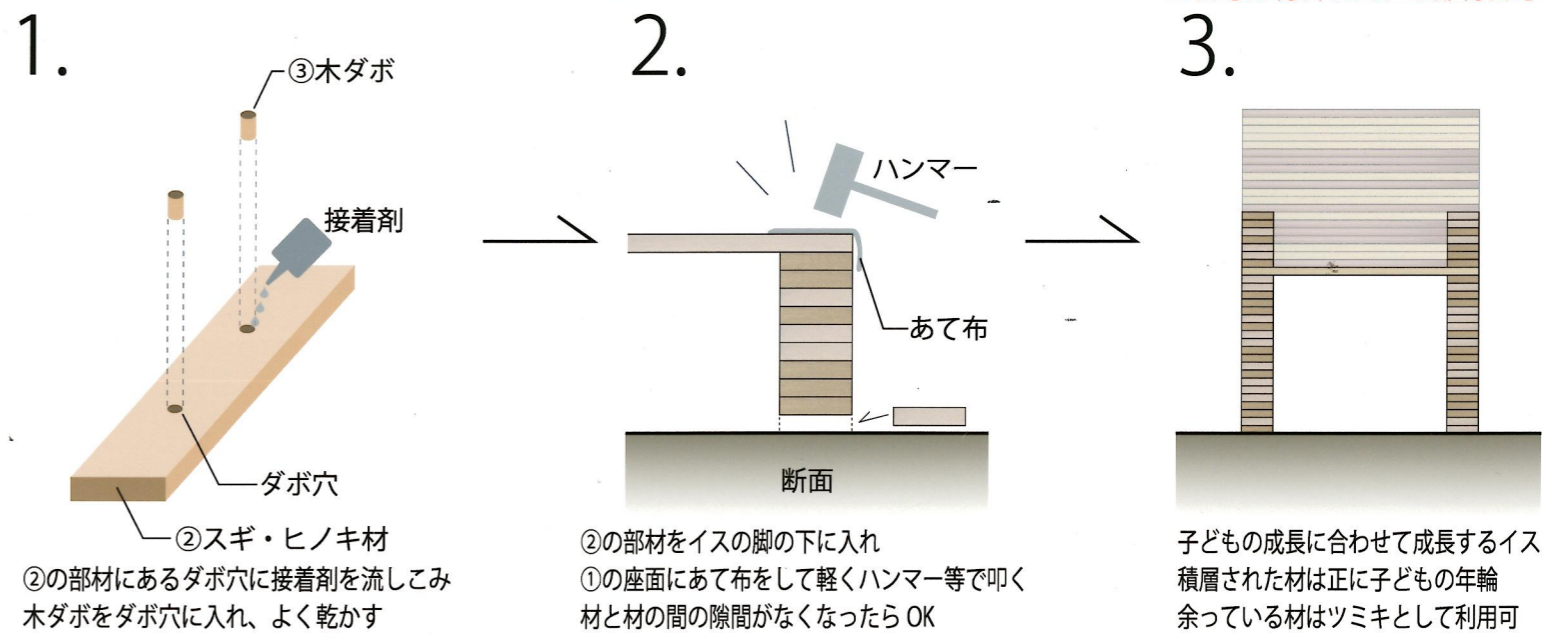
■材料について～その1～

おおさか河内材のスギ及びヒノキを用いて材料を製作する。  
スギとヒノキは色味（匂いも）が違うため、積層させる順番によって様々なデザインが生まれるしくみができあがる。材の厚みは1cmのため細かな高さ調整が可能である。  
材の匂いもそれぞれ違うため、五感を通して木を学ぶことができる。  
木は自然の教科書である。



■つくりかたについて～積み重ねていくだけの簡単な工程～

イスを使わない月齢では、主に材料はツミキとして利用できる。  
イスを使い始める月齢になると以下の組み立てでイスをつくることできる。



※番号は材料リストの部材番号

■材料について～その2～

スギは、赤みをおびた材料で軽量で柔らかく加工がしやすい。  
ヒノキは、白い材料で匂いが良くスギよりも重いが柔らかく加工がしやすい。  
両方とも、柔らかく比較的軽量なため、ツミキや子ども用のイスにはもってこいの材料である。  
傷がついたとしても、それは子どもの成長の立派な証となり、家族の年輪となる。

